

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 伊積 秀人		
学校教育目標 自分で考え 判断し 決定し 行動する子の育成		学校経営の方針 教育基本法、小学校学習指導要領等関係諸法令並びに神奈川教育ビジョン、厚木市教育大綱に基づき、児童の実態を踏まえ、地域社会の期待に応え、地域とともに育てる学校経営に努め、教育目標の具現化を図る。		
今年度の重点目標				
【めざす児童像】 ◎かかんがえる子 ○おもいやる子 ○げんきな子 【めざす学校像】 あいさついっぱい 笑顔いっぱい 森の里小学校				
A<主体的に学ぶ力の育成> ①社会に開かれた教育課程の追究 ②確かな学力の向上 ③道徳教育の充実 ④読書活動の充実(学校図書館の活用) ⑤幼・保・小・中の連携		B<実践力の育成> ①自主的・実践的な集団活動(児童会活動等)を通じた、人間関係形成力の育成 ②児童の安全確保と安全教育(防災も含む)の充実 ③GIGAスクール端末の活用による授業づくりの推進		
C<豊かな心と健やかな体の育成> ①個を大切に支援教育の充実 ②インクルーシブ教育の理解と実践 ③きめ細かな児童指導の推進 ④体力づくりの推進 ⑤健康教育と食育の推進		D<学校管理体制の充実> ①学校運営組織の見直しと学校情報の発信 ②「働き方改革」の積極的な推進 ③危機管理体制の見直し ④予算、補助金の適切かつ効果的な活用 ⑤適切な施設設備管理 ⑥PDCAサイクルに即した学校評価の実施		
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の周知	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPや学校だより等への常時掲載による周知 朝会や学校行事等での周知 児童会活動等、児童の活動場面で周知 	児童の15%強が目標が答えられない結果から、学年にもよるが、日頃の指導から目標を意識できるよう教師側から伝える必要がある。	日々の指導や活動が、最終的に何に向かっていか、教師側がきちんと意識して取り組んでいくためにも、会議・研修等で共有するだけでなく、児童・保護者にはHPやおたより、朝会や懇談会等、周知に努める。
学校教育目標を実現するための教育が行われているか	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究及び校内研修の実施 	2割ほどの保護者が肯定的ではないので、我々教職員がより一層意識するよう取り組む必要がある。	意図的、計画的な教育活動の実施、教職員の研修内容の充実、自己研鑽の推奨を図る。
家庭学習の習慣が身に付いているか	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた家庭学習用の課題 GIGAスクール端末の持ち帰りによる自主学習の啓発及びAIDリルの活用 毎週金曜日、全学年AIDリルの課題設定 	「家庭学習」について、教員の捉えと保護者や児童との捉えにずれがある。教職員が「宿題」を出すことで身に付けてほしいことは、「基礎・基本な学力の向上」に加えて、「提出物を期限を守って出すことの大切さ」といったことであることを伝える必要がある。	次年度は、全学年授業参観のあとに懇談会を設定し、懇談会の中で宿題の内容や宿題に対する担任の考えを保護者の方に伝える。
人を思いやり、助けあう気持ちの育成について	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を通じた人間関係形成 いじめアンケート及び児童を対象とした教育相談の設定 	教職員・保護者は「とても思う」「思う」が多かったが、児童においては一割ぐらいが、「あまり思わない」「思わない」を選択している。	自分の言動により、相手が嫌な思いをすることもあることを取り上げながら、日常の生活はもちろん、人権教育や道徳の時間などに、相手への配慮の気持ちを考える機会を設定する。

学校の約束やきまりに対する意識の持ち方について	1・3	・児童指導担当による月別めあての確認 ・児童指導担当による啓発 ・クラス担任による日々の啓発及び場面に応じた指導	「森っ子の約束」を伝えていきながら、その都度、確認したり共通理解していくことで、きまりを守る大切さを児童が考える機会を設定した。	なぜそのようなきまりがあるのかを児童会活動や縦割り活動などを通して、児童も考える時間をもち、主体的に行動できるようにしていく。
挨拶について	2・3	・教職員から児童・保護者・地域の方への挨拶 ・日々の声かけ及び指導 ・児童会を中心とした挨拶運動	挨拶については、保護者の2割近くができています。「あまり思わない」「思わない」と答えている。自分から挨拶できる児童を目指し、児童会では、今年度、「あいさつの木」を使いあいさつ運動を実践している。児童自ら積極的に取り組んでいる様子も見られる。	挨拶運動をきっかけに、進んであいさつをする雰囲気を広げていだけでなく、地域にむけての挨拶もできるようにしてほしいと考えるので、教師からの働きかけも行っていく。
安全について (防犯ブザー・ヘルメット着用・交通ルールの遵守)	2	・年3回の避難訓練、引渡し訓練、交通安全教室、防犯教室の実施 ・防犯ブザー携帯調査の実施 ・校外指導(学区箇所の見回り時での声かけ等)	今年度もヤマト運輸と連携し、交通安全教室を行った。また、防犯ブザーの定期的な調査やヘルメットの調査を行うようにしたが、どちらも着用率は高いとは言えない。	ヘルメット、防犯ブザーの着用率を今後も高めていきたい。児童の安全への意識向上と安全教育を今後も進めていく。
保護者・地域との積極的な協働活動に取り組んでいるか	1・2・3	・生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域学校協働活動の推進 ・公民館と連携しての地区との合同運動会の開催	児童・保護者・教職員が概ね肯定的な意見をもっていることが分かるが、さらに発信していく必要があると考える。今年度は学校だよりの「CSコーナー」においても、地域学校協働活動に関して内容の充実を図ったが、学習内容によっては地域学校協働活動となかなか繋げにくい学年もあった。	推進員と窓口担当教諭の連携はできているので、さらに推進員とクラス担任との連携がよりスムーズになるよう、協働活動の啓発・推進を図る。
基礎学力を定着させるための「わかる授業」となっているか	1	・地域の協力による体験活動 ・校内研究や年次研修、自己研鑽による研修の受講 ・ICTの積極的な活用 ・「みんなの教室」の活用	教職員は「とても思う」「思う」の回答で占められているが、そのように感じていない、授業が分からないと答えている児童もいる。	児童一人ひとりの実態を担任で確実に引き継ぐとともに、学習状況が分かるような取組を、学年が変わった早い時期でできるようにする。校内支援との連携もさらに深めていく。
特別活動を通した自主性・責任感の育成	1・2	・縦割りにより昼休みを活用したグループ活動及び清掃活動 ・児童会が主となり計画・実施した「森っ子ピクニック」といった縦割り活動	1年生を迎える会、森っ子夏祭り、森っ子ピクニックなど、多くの児童会行事を通して、児童の成長を支援している。3学期は6年生を送る会に向けて、各学年積極的な取組をしている。また、児童会を中心とした縦割り活動だけでなく、清掃等にも異学年交流を取り入れている。	小規模校ならではの、他学年との交流を今後も大切にしていく。
個に応じた支援、指導の充実及び相談体制について	1	・「みんなの教室」の活用 ・学カステップアップ支援員の活用 ・教育相談コーディネーターを中心とした、担任や養護教諭、スクールカウンセラー及びこころスマイル支援員との連携 ・支援学校の巡回相談を活用した支援体制づくり	児童の中には、わからないことを聞きたいけど聞けない児童がいるかもしれないことがうかがえる。	言えずに困っている児童に対して、言える環境づくりをしていく。また、必要に応じて、支援会議やケース会議を開いたり、スクールカウンセラーやこころスマイル支援員を活用したりするなど、個に応じた支援を図っていく。 伊勢原支援学校の巡回相談を活用し、学校の支援体制づくりへの助言をいただく。

健康的な生活を送るための支援ができていますか	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・投げ方教室の実施 ・体力づくり旬間の設定(なわとび、持久走) ・ロング昼休みを継続することによる運動の機会の設定 	学校でのけがや病気の発生率は減少傾向であることから、児童は生活習慣などから健康な生活に対するイメージをもっているのかもしれない。	生活習慣を見直していくこととともに、学校でも、体力づくり旬間や外遊びの日の活動を継続していく。また、学校保健委員会などを通して、保護者や地域の方へ健康に関する情報を提供していく。
児童・保護者・教職員それぞれの災害・防犯に対する意識について	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や実際の事案をとおしての指導 ・自治会や消防団と連携した授業の設定(地域協働) 	定期的な避難訓練等で、児童の安全指導を行っている。安全対策に終わりはないと考える。	今後も環境面を含め、安全指導に取り組んでいく。一つしかない大切な自分の命を自分自身で守っていくことの大切さについて、学ぶ機会とする。
学校教育活動の情報等の発信について	1・3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学校HP(学校ブログ)、学年だよりでの情報発信 	保護者からイベント等だけではなく、日頃の授業の様子も知りたい等のご意見もあった。	日頃の様子を担当だけで発信するのは難しいため、年度途中、HP担当から全員が関われるような体制の提案があった。今後は担当だけでなく、チームでHPの充実を進めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

地域学校協働活動について、今年度も多くの活動が実施され、多くの方も関わってもらうことができた。地区との合同運動会の児童のアンケートを見る限り、概ね高評価である。次年度も今年度並みという話なので、楽しみである。学習に関しては、「サキドリ事業」がどうなるかがかりではあるが、「学習の探究」については、場合によっては地域協働もできるのではと考える。防犯ブザー、ヘルメットの着用率には変容を数値で見せると着用率も変わってくるのではないかと。大人がかぶらないと子どももかぶらないと思うので、まずは地域から広げないといけないのではないかと。災害時の判断について、学校ではどうしているのか話題にあがったが、判断材料を整えられる仕組みがあると、地域としてわかりやすい。挨拶については、まず、大人が声をかけるという手本も大事。「みんなの教室」については、学習不安に対する理由が多いが、不登校や登校しぶり等の児童については、今後、検討が必要。体力測定「ソフトボール投げ」の数値は、女子が県・全国平均より上回った。スタッフの人数が増え、児童一人一人に関わる人数が多かったことが要因としてあるのではないかと。地区運動会については、地域側の種目を工夫するとよい。児童のアンケートをみると、参加していない児童で「参加してみたい」と答えている児童の割合が高いことから、こういった点を保護者にアピールするのが大切だと思う。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校運営はおおむね良好であった。本校の特色である地域学校協働活動については、窓口となる教員と地域学校協働活動推進員との調整により、今年度も多くの活動を無事に終えることができた。また、活動に興味をもって参加して下さる地域の方もおり、次年度も保護者や地域の方にむけ活動を発信することで、本校の教育活動の理解を進めていきたい。次年度は「サキドリ事業」により、教育課程を工夫して編成することで、児童だけでなく教職員にとっても意味のある取組にしたい。